

秀次倶楽部



2005.2
秀次倶楽部
会報
vol.

4

発行：NPO法人 秀次倶楽部 滋賀県近江八幡市出町133 天八シガ1階 TEL(0748)32-1985 / FAX(0748)32-3514(ラビットハウス内) / E-mail club@hidetugu.jp

平成17年度総会開催



去る1月10日(月)、「じゅらく」にて本年度の通常総会が開催されました。正会員16名(内委任状7名)の出席のもと、16年度の事業報告並びに決算報告について審議され、全会一致で承認されました。続いて、報告事項として本年度の事業計画並びに収支予算についての説明のあと議論がなされ、新年度のスタートがざられました。

3年目となる今年は、4月に秀次に関する講演会事業を開催します。その他、金魚すくい大会やパネル展示、仄仄通信の発行など盛りだくさんの事業内容となっています。また、葦うどんの製造販売についても、別事業部会制をとって、ある程度の生産量を設定した本格的な取り組みをしていくこととなりました。会員の皆さんには今まで以上にご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。

京都の秀次ゆかりのお寺に行ってみました

昨年のごことになりましたが、仄仄通信でもお伝えしたように、京都にある善正寺、瑞泉寺、嵯峨村雲別院の三つのお寺を訪れました。参加者が少ないのは残念でしたが、それぞれの住職の秀次に対する熱い思いをお聞きすることが出来、大変有意義な時間になりました。秀次を顕彰していく



ことで市民の誇りとなるよう願う私たちにとしては、それぞれのお寺の存在は大きく、精神的な支えや励みになっていることはいうまでもなく、これからも連携を保ち活動していきます。また、より多くの方々に寺院を訪れてもらえるように、工夫したお寺めぐりを今後考えていきます。

葦うどん製造販売について

前記のように、葦うどんについては別事業部会制をとって進めていきますが、葦を粉末状にするための前工程として、葦の刈り取り、乾燥、裁断には多くの人手が必要です。会員の皆さんにもお手伝い頂きたいのですが、私たちがだけの作業では数量に限界があります。外部から人材を雇うことを考えています。その人件費、うどん製造にかかる費用一切を捻出するために、皆さんから投資という形でご協力頂きたいと思っております。販売で得た利益は配当します。もちろん強制するものではないので、ごいせません。新しい産業への投資とお考え下さい。

投資内容

- 【投資額】 50,000円
- 【募集期間】 3月末日まで



本年度会費納入のお願い

平成17年度の会費をお支払い頂いていない会員の方は恐れ入りますが、事務局へご持参頂くか、郵便振込みをお願いいたします。尚、秀次倶楽部の年度変わりは4月ではなく、1月です。お間違えの無いようご注意ください。お願いいたします。また、現在賛助会員の方もおのころに是非正会員として、いしよに汗を流してみませんか。お待ちしております。

郵便振込

口座番号 146000112268231
口座名義 特定非営利活動法人 秀次倶楽部

会員の皆さんの連絡先について

現在、皆さんへの理事会や総会などのご案内の大半は郵送しています。今後経費削減のために可能な限り連絡は、FAXやEメールに移行していきたいと思っております。つきましては、会員の皆さんの連絡先FAX番号、Eメールアドレス、携帯電話番号(を事務局まで)アップロードして下さいますようお願いいたします。

歴史講演会

東京の会員、関さんのご尽力により開催します。

講演 談 「秀次物語(仮称)開催決定
開催日時 平成17年4月16日(土)
13:00~17:00

開催場所 アクティ近江八幡
(JR近江八幡駅南口近く)

内容 講演 秀次物語(仮称)
講師 田辺 鶴

会員の皆さんには当口のスタッフとしてのご協力をよろしくお願いいたします。



仕事柄というより、性格柄で... 井戸洋

おほりばたひろば

仕事柄というより、性格柄で夜の京都・先斗町に足が向きます。先斗町通りは、あの狭さなんともいえません。観光や集客の町づくりを考えるうえで、中心道路の幅は大変に重要な要素です。ある程度、狭い方が限性を生み、広過ぎると町並みが分断して、にぎわいを遠ざけてしまいます。ここの声が、道を挟んだ向こうによく届く幅がいいのではありませんでしょうか。先斗町は2メートルもありませんが、防災上は大きな問題があります。それも許され、狭さの歴史を継承しているのは、いかに京都らしいところですか。かつては舞妓さん、芸妓さんの通り道で、比較的閑散としていたのが、いまでは観光客でこったがえし風情が変りました。変わったといえ、先斗町通を歩く私自身も変わりました。通りの北端から三条大橋へ向かう道の左手は、秀次公と御一族が眠る瑞泉寺の境内地です。去年、何処からかがつて中川龍見住職から親しくお話を聞いた、その場所です。踏んでいる地面の下が、四百年前の三条河原だと思つくと、心の中で手を合わせずに歩くことはできません。だらしなく飲んで揺れながら歩いて、いまやここが酔い覚め地点となりました。井戸洋

Eメールアドレス _____ FAX _____
携帯電話番号 _____

● に、ご記入の上FAXにてご返信お願い致します。FAX.0748-32-5314